

■令和4年建築士試験のご案内

受験申込は、原則として「インターネットによる受付」のみとなります。

建築士試験が下記の日程で実施されます。

	一級建築士	二級建築士	木造建築物
インターネットによる受付期間	4月1日(金) ~ 4月14日(木) 10時 ~ 16時		
受験手数料	17,000円	18,500円	18,500円
学科の試験	7月24日(日)	7月3日(日)	7月24日(日)
設計製図の試験	10月9日(日)	9月11日(日)	10月9日(日)

※詳しくは、試験実施機関のホームページをご確認下さい。

(公益財団法人建築技術教育普及センター <http://www.jaeic.or.jp/>)

また、問合せは電話相談窓口(011-221-3150)までお願いします。

■北見市からのお知らせ

『春の建築物防災週間』

毎年、地震、火災、がけ崩れ等の災害により建築物の被害はもとより、多くの人命が失われている実状にかんがみ、北海道の建築物防災週間に併せて、広く市民を対象に建築物に関連する防災知識の普及に努めるとともに、防災・維持保全関係法令及び制度の周知徹底等を図り、もって建築物の防災対策の推進に寄与することを目的に実施致します。

会員の皆さまもこの活動へのご理解、ご協力をお願い致します。

【実施期間】4月20日(水)~4月26日(火)

■住所、氏名、資格、勤務先等に変更があった場合は遅滞なく変更届の提出をお願いします。

(一社)北海道建築士会ホームページより届出書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、北見支部事務局((株)清和設計事務所)までご持参ください。

【届出書】http://h-ab.com/download/association/app_statement01.pdf

■メールアドレスの登録について

一般社団法人北海道建築士会及び北見支部からの情報は支部ニュースでお伝えしておりますが、各月の支部ニュースでは情報が遅くなることもあり、メールでの配信を併用しております。メールでの配信を希望される方は、事務局(h.ab.kitami@gmail.com)までメールアドレスをお知らせください。

■支部ニュースでお知らせする会員向け情報を随時募集しています。

※裏面もご覧ください※

《会員紹介コーナー》

親 会

『 木との関わり 』

執筆者 野嶋 裕司 (三九建設(株) 勤務)



この業界に入ってから、45年も経ってしまいました。最初の16年間は、RC造・S造の建物ばかりに関わっていて、その工事の中の木造と聞いただけで、積算をするにも、現場施工するにも苦手意識が働いて、逃げ腰になったものでした。そんな私が今では、木造の一般住宅はもちろんですが、大断面集成材を使ったHR工法で20mスパンを梁成1.5mの梁で飛ばした工場を建てたり、今、話題に上がっているCLTを使った(当時、国内で2例目)オホーツクウッドピアのセミナーハウスや、自社のショールーム・貸事務所を建てたり。最近ではフィンランドサウナの販売に関わり輸入キットの組立や、既存室内に合せたオーダーサウナを作るなど、木に関わっている自分に大変驚いています。先日、木造牛舎の現場で、大工仕事を少し手伝った時、身体が動かない事にショックを受け、歳を取ったと感じましたが、もう少し頑張ろうと思っている、今日この頃です。

青年部会

『 建築を好きになったきっかけ 』

執筆者 松井 佑太朗 (北見市役所 勤務)



今年度からひっそりと建築士会北見支部の一員に加えていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。さて、私も先輩たちを見習って、建築を好きになったきっかけについて書かせていただきます。

私は物心ついた頃からカラフルなものが好きでした。例えばそれは、五色揃った特撮ヒーローや、サーカス、テーマパークといった様々な色がちりばめられた空間。大きくなるにつれ自室の家具なども例外ではなくなり、部屋はどこを切り抜いても虹色が完成するような状態でした。そして、思春期を迎えて、おしゃれな部屋について真剣に向き合っていた頃、『インテリアデザイナー』という職業を知ったことが大きな転機になります。色遣いはもちろん、内装材や家具、照明器具といったアイテムを用いて、空間全体を設計する職業であると知り、部屋の模様替えを兼ねて、参考書の内容を見様見まねで実践するうちに、空間作りに楽しさを感じ、建物全体をデザインすることに興味を持つようになり今に至ります。このコラムを書かせていただくまで、建築に興味を抱いた原点をすっかり見失っていましたが、好きなことから今日にたどり着いたことに感謝しながら、明日も楽しくこの道を歩んで行こうと思います。

ちなみに今は青色が好きです。

女性部会

『 非常時の動線計画について 』

執筆者 三好 恵 (北見市役所 勤務)



最近、病院で抗原検査を受ける機会があり、ドライブスルーのように救急入口に車を寄せて検査を受けました。その際に救急車が近づいてきましたが、救急車は別の場所に駐車して検査が終わるのを待っているようでした。院内は3回目のワクチン接種により混み合っていたので、もし救急の患者さんを検査中に受け入れることになったらどのように動線を区切るのかを考えながら検査を受けていました。

コロナという非常時を想定していたとしても普段から動線計画を確認し、非常時以外使用しない建具等があれば点検しておかないと使えません。設計段階で動線計画がなければ病院関係者自身が通常業務をしながら考えなければならぬため大きい負担になると考えられます。コロナ以外の様々な災害が発生することも想定しながら、様々な角度から設計に関わっていくことが重要だと感じました。